

武器から探る南加賀の古墳時代

～加賀国誕生前史、古墳豪族たちの興亡に迫る～

令和5年は、古代の加賀国が誕生してから1200年の大きな節目です。当時の政治と文化の中心である「加賀国府」は、国府地区を中心とした旧能美郡域にあったと推定されています。今回は、加賀国が誕生する前の南加賀の古墳時代にスポットを当てます。

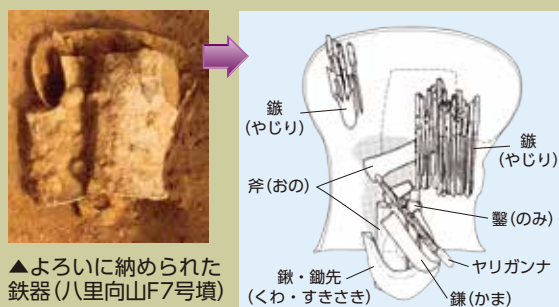
問い合わせ

埋蔵文化財センター ☎47・5713

古墳に副葬された鉄器



▲副葬された武器や農工具類(河田山36号墳)



▲よくいに納められた鉄器(八里向山F7号墳)

古墳時代は、ヤマト王権が主導して各地の豪族たちが巨大な墓(古墳)を築いた時代です。南加賀では能美と江沼の2つの平野に有力な豪族たちが集落を広げ、平野部を見渡す丘陵上に連なつて古墳が築かれていきました。

具などの鉄器が多く納められるようになります。高度な技術で作られる武器や甲冑は、ヤマト王権が生産を一括管理し豪族たちに与えたと考えられ、所有者の地位を示す重要なものでした。また農工具は王の号令の下に招集された部隊が、野営や行軍を行う際に必須の道具でした。

この時代の国際情勢に目を向けると、東アジアは動乱の時代にありました。ヤマト王権は積極的な外交政策を行っていたと記録され、それまで以上に地方豪族たちの力を必要としていたのです。南加賀が北陸有数の鉄器副葬集中域であることは、そうしたヤマト王権との深い結びつきを物語り、南加賀の豪族たちが軍団の一員として活躍したことを意味するのかもしれない。そしてこうした伝統的な勢力が、後の加賀国誕生にも携わっていたのではないのでしょうか。

特別展

漆黒の甲冑軍団登場 ～南加賀の古墳時代～

甲冑や鉄製武器を中心に、南加賀の古墳時代を紹介します。

とき 9月11日(日)まで

ところ 埋蔵文化財センター

観覧料 一般100円、高校生以下無料

主な展示遺跡 【小松市】河田山古墳群、八里向山古墳群、埴田後山古墳群、矢田野エジリ古墳 【加賀市】吸坂丸山古墳群、狐山古墳

特別講演会

武器から探る南加賀の古墳時代

とき 9月3日(土) 13時30分～15時30分

ところ こまつ芸術劇場うらら 小ホール

(インターネットで同時配信)

講師 田中晋作(山口大学人文学部客員教授)

定員 100人(先着順)

参加費 無料

申し込み 電話、FAXまたはメールで

(配信の観覧申し込みは9月2日(金)まで)

申込先 埋蔵文化財センター ☎47・5713

FAX 47・5715 ✉maibun@city.komatsu.lg.jp



講演会場にて
復元甲冑を公開!